

## 慶應義塾大学ビジネス・スクール

# 株式会社プロテインクリスタル

「森 肇殿、株式会社プロテインクリスタル代表取締役への就任を許可する。」

5

2004年6月、京都工芸繊維大学繊維学部の森助教授のもとに大学当局から兼任許可書が届いた。株式会社プロテインクリスタル (Protein Crystal Corporation 以下、PCCと略) の設立当初から会社の将来に関して、森氏の中にあった様々な思いが一気に吹き上げてきた。この瞬間、森氏の背中には冷たい汗がひとしずく、ツーと流れ、全身の身震いを感じた。森氏は、今後PCCをどのように成長させるのか、カイコの多角体タンパク質の技術をもとに、どのように商品化を図るのかという疑問に対する解答を探していた。日本の伝統産業を支えてきたカイコからバイオの先頭に立つような製品が生まれ、日の目を見るチャンスが早々と巡ってきた。今までは絹糸を作るだけであったカイコから新しいタンパク質を生産することが可能になり、カイコの多角体タンパク質の技術をビジネスとして展開するPCCの舵取りをも背負うことになった今、様々な期待と不安とが森氏の心の中で複雑に交錯するのであった。

10

15

森氏の研究室がカイコの研究で産業界に注目されたのは、1999年3月に研究室の中澤裕氏らが発光するタンパク質をカイコのシルクを作る遺伝子に導入することに成功し、“「光る絹糸」遺伝子操作で成功!”と主要紙が報じた時からである。富士写真フィルム出身の杉山正敏氏が森氏に光るシルクの製品化を勧めたが、当時森氏は研究室のもう1つの研究テーマであったカイコウイルスが作る多角体タンパク質の研究に熱中していた。

20

25

---

本ケースは、クラス討議のため、インタビューならびに公刊資料をもとにまとめられたものであり、経営管理に関する適切あるいは不適切な処理を示すことを意図したものではない。本ケースは、大野秀雄、久米智恵、中村正彦、福村正之、藤田隆大、増野浩幸、吉田一晴、松本学が作成し、慶應義塾大学大学院経営管理研究科教授中村洋が監修を行った。  
(2005年4月作成)

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、ケースの複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクール (〒223-8523 神奈川県横浜市港北区日吉本町2丁目1番1号、電話045-564-2444、e-mail case@kbs.keio.ac.jp)。また、ケースの注文は <http://www.kbs.keio.ac.jp/case/index.html>。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、本ケースのいかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またはいかなる方法(電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない)による伝送は、これを禁ずる。

30